

Title	平成13年度事業報告
Author(s)	
Citation	癌と人. 30 p45-p.48
Issue Date	2003-03-31
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23690
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

平成13度事業報告

(財)大阪癌研究会

1. 一般学術研究助成について

癌に関する学術研究を奨励助成するため、昭和61年度から実施している「一般学術研究助成」事業は、本年度で16年の歴史を重ねております。

今年度は、「悪性腫瘍の診断と治療に関する基礎的並びに臨床的研究」をテーマにしたものを対象に、全国100研究機関から公募したところ、54名の応募があった。

これらを一般学術研究助成選考委員会で慎重に検討し、理事会で審議のうえ決定された助成対象者は「別表1」のとおり12名であった。

2. 癌シンポジウム・講演会等の開催経費の助成について

癌の予防、診断及び治療に関する研究の連絡、提携の促進を図り、癌の医療の進歩普及に貢献するため、本財団の主たる事業の一つとして平成9年度から実施している「癌シンポジウム・講演会等の開催経費の一部助成」事業については、癌シンポジウム・講演会等からの助成申請のあったものを、理事会で慎重審議の15件に助成した。

その主なものは次のとおりで、全容は「別表2」のとうりである

(1) 第8回日仏癌会議（代表者：田口鐵男, J・P・Anmand）

癌治療に用いられる新規薬物の開発研究に関し、アジア臨床腫瘍学会との共同で平成13年4月7日に台北市において開催し、フランスから10名、日本から30名の出席のもと活発な討議がなされ、成功裡のもとに閉幕した。

なお、本会議の有効性に鑑み、今後も引き続き定期的で開催することとなった。

(2) 第3回感染症フォーラム21「国際シンポジウム：ヒト感染症および癌の病態解明からその予防へ」（代表者：本田武司, 生田和良）

ヒト肝ガンの原因となる肝炎ウイルスなどを含めた感染症の病態からその予防に関する研究についての国際交流を行い、今後の研究の方向性を探るため、世界の第一人者を大阪に招き国内外からの著名な研究者100名の出席のもと、大阪千里ライフサイエンスセンターにおいて、平成14年1月22・23日に開催され学術的に極めて意義深いものであった。

なお、次回も大阪において開催されることとなった。

(3) 胃がん・大腸がんなどの消化管がん化学療法研究会（代表者：古河 洋）

胃がん・大腸がん患者に対する抗がん剤治療の効果と副作用を検討するための研究会を数年前から設置し、本年度も大阪市で計6回開催され、毎回40～60名の出席があり、活発な意見交換がなされ有意義な研究会となった。

なお、本研究会をより一層推進し医療に貢献するために、来年度以降も継続開催されることとなった。

(4) BRM効果予測因子研究会（代表者：塚越 茂）

BRMであるレンチナンを胃がんで汎用されている抗がん剤TS-1と併用した場合の免疫パラメータや栄養指標等の変動を検討することで、BRMの効果予測因子を探索するため、平成13年度に研究会が発足し、今年度も東京都で継続開催され、約100名の参加者があり初期の

目的が達成できた。

(5) ホルモンと癌研究会（代表者：野口眞三郎）

ホルモン依存性癌（乳癌・卵巣癌・子宮内膜癌・前立腺癌など）の生物学的特性に関する基礎的な研究，ならびに，臨床への応用についての研究成果の発表と意見交換を行うための場として，平成13年7月27・28日の両日に大阪市内で200名の参加のもとに研究会を開催し，貴重な研究発表と活発な意見交換ができ，今後のこれらの依存性癌における基礎研究の指針と医療現場への応用に意義ある研究会であった

3. 癌の知識普及活動について

本財団の会誌「癌と人」の第28号を刊行し，全国の癌研究機関の研究者をはじめ，一般市民向けに主に関西を中心とした地方公共団体の健康管理センターや福利施設，及び，賛助会員等に無償で配布し，癌に対する正しい知識の普及活動に鋭意努力した。

平成13年度「一般学術研究助成金」助成対象者

氏 名	所 属 機 関	研 究 テ ー マ
石 田 竜 弘	徳島大学薬学部 薬 剤 学 教 室	癌化学療法における多剤耐性の克服を目指した細胞内薬物送達システムの開発と治療への応用
向 田 直 史	金沢大学がん研究所 組織分子構築研究分野	単球走化因子 (MCP-1) を用いた癌免疫遺伝子治療法の基礎的検討
大 西 浩 史	群馬大学生体調節研究所 附属生理活性物質センター	新しい細胞間シグナリングシステムCD47-SHPS-1系による細胞死誘導とがん治療への応用
池 田 英 之	札幌医科大学医学部 病 理 学 第 一 講 座	自家CD4陽性T細胞により認識される扁平上皮癌ワクチン開発
水 上 洋 一	山口大学医学部 器官制御医科学講座	低酸素応答性ガン抑制遺伝子活性化受容体の解明
黒 川 量 雄	大阪大学微生物病研究所 腫瘍ウイルス分野	生細胞での癌遺伝子産物群の活性状態の可視化
鈴 木 聡	秋田大学医学部 生 化 学 第 二 講 座	癌抑制遺伝子PTENの不活化による腸管腫瘍発生の検討とその位置づけ～腸管特異的PTEN欠損マウスを用いた検討～
堀 江 恭 二	大阪大学先端科学技術 共同研究センター バイオ・生命系分野	トランスポゾンを用いた癌誘発モデルマウスの開発及び癌抑制遺伝子の同定
河 上 裕	慶應義塾大学医学部 先端医科学研究 細胞情報研究部門	樹状細胞療法後に治療効果を認めた癌患者血清を用いた癌抗原の単離
門 脇 則 光	京都大学医学研究科 臨床器官病態学講座 (血液病態学)	リポソームを用いた菌体成分の腫瘍巣へのターゲティング-感染免疫を応用した新規癌免疫療法の開発-
田 代 学	東北大学医学系研究科 病 態 薬 理 学 分 野	癌患者の精神症状・疼痛緩和および症状発現機構に関するPET画像研究
田 中 信 之	日本医科大学老人病研究所 免 疫 部 門	がん抑制因子p53による細胞周期制御系の破壊した細胞の排除機構の解析

別表 2

平成13年度「癌シンポジウム・講演会助成費」助成対象会議

シンポジウム・講演会名	申請者	助成金額	備考
胃癌・大腸がんなど消化管がん化学療法研究会	古川 洋	千円 10,450	
中国・四国地区婦人科癌（卵巣癌）集学的治療に関する検討会	河野一郎・藤原恵一	2,850	
BRM効果予測因子研究会	塚越 茂	7,125	
第8回日仏癌会議	田口鐵男 J. P. Anmand	190	前年度から継続で前年度助成額 5,557.5
ホルモンと癌研究会	野口眞三郎	2,232.5	
第23回日本癌局所療法研究会	中村仁信	1,520	前年度から継続で前年度助成額 1,710
白血病など造血器疾患についての研究会	谷本光音	2,375	
日中喉頭腫瘍研究会	古川 洋	475	
臨床試験研究会	中里博昭	9,500	
大阪がん検診治療研究会	藤田昌英	50	
癌治療における椎茸菌糸体抽出物の有用性検討会	螺良英郎	14,250	
国際シンポジウム：ヒト感染症および癌の病態解明からその予防へ	本田武司・生田和良	1,064	
胃癌TC療法研究会	坂本純一	4,750	
膀胱癌化学療法研究会	稲垣 均	1,900	
癌緩和ケア研究会	田村和夫	1,425	
合計（15件）		60,156.5	